

平成 23 年度 加茂市・南蒲原郡の取組

加茂市と南蒲原郡が一緒に活動する体制はない。ここでは、それぞれの活動について述べる。

1 加茂市の取組

教務主任連絡会の内容から教育課程に関することを報告する。

10月＝新教育課程実施に伴う各校の取組と課題について情報交換。

- ・時数増に伴う週時程の工夫
- ・指導計画作成時の工夫
- ・学校行事実施上の工夫
- ・外国語活動の取組
- ・総合的な学習の時間の見直し 等

11月＝新教育課程実施に伴う各校の取組から次の2点にテーマを絞って情報交換。

- ①時数確保の工夫と放課後時間の減少に伴う対応。
- ②ALT、外国語講師の活用の現状。

2月＝平成24年度行事予定及び新年度教育計画作成について。(予定)

- ・各校の資料を交換し、新教育課程2年目に向けて工夫している点や課題などを情報交換する予定である。

<成果と課題>

成果としては次の点である。

- ①各校で時数の増加や放課後時間の短縮にともなって工夫していることを情報交換することにより自校の取組に生かす参考となった。

課題は以下の2点である。

- ①学習内容の増加や変更に伴い、実質的な必要時数や指導時期など、新教育課程で一年間実施して見えてきた指導計画の改善が必要である。
- ②余裕を持った時数確保のために、諸会議の持ち方や分掌業務の効率化と合わせて、さらなる工夫改善が必要である。

2 南蒲原郡(田上町)の取組

平成22年度、田上町では幼稚園・小学校・中学校の教育を支えるトータルシステム「田上の12か年教育」の取組を開始した。その取組の一つであるスタートカリキュラムの実践について報告する。

昨年度、田上町教育研究議会の幼小連携部(1幼稚園と2小学校の担当で構成)が中心となってスタートカリキュラムを作成した。スタートカリキュラムとは新学習指導要領で取り上げられている小1プロブレムなどへ対応した接続期カリキュラムである。

先進地域に学ぶ基礎学習の後、町の5歳児の保護者、町小学校教員、町内幼稚園・保育所の保育士へのアンケートを実施。その結果分析からカリキュラムの骨組を作成し、両小学校の独自性を生かしてスタートカリキュラムを作成した。

今年度は、実施初年度である。4月の1カ月をスタートカリキュラムに従って実践した。

8月＝両小学校のスタートカリキュラム実践の様子を報告し合い、スタートカリキュラムについて今後の方向を検討した。

<成果と課題>

両校共通の成果として以下の3点を確認した。

- ①1日のスタートを同じ流れで構成したことで、児童が心に余裕をもち、スムーズに学校生活に慣

れることができた。

- ②学年合同の集団遊びを取り入れたことで、新しい人間関係づくりをスムーズに行うことができた。
- ③異学年との交流を意図的・計画的に行ったことで、全校から歓迎されていることを実感させることができた。

課題は以下の2点である。

- ①学年合同の集団遊びの内容をより充実させること。
 - ②一部、計画に無理な部分があったのでそれを修正すること。
- 全体を通して大きな課題はなく、大変スムーズに小学校生活をスタートさせることができた。
この後、24年度に向けてカリキュラムの修正を行う。

なお、幼稚園では現在アプローチカリキュラム（小学校生活をスムーズにスタートさせるための5歳児後半のカリキュラム）を実践中である。（文責 田上町立羽生田小学校 水越 啓彰）